

「経団連観光インターンシップ」について

2015年11月

経団連 産業政策本部

1. 趣旨、経緯

1. 観光立国の実現が政府の成長戦略の重要な柱の1つとして位置づけられるなか、観光産業の将来を担う人材の育成は急務。
2. 経団連観光委員会では、具体的な人材開発プロジェクトを推進するため、2011年4月より立教大学、2014年4月より首都大学東京と連携して、幅広い関連業種企業の参加の下、「経団連観光インターンシップ」を開講。
3. 狭義の観光業（宿泊業、旅行業など）の枠にとどまらず、観光への企業の多様な関わり方を学ぶことを目的。
 受入先において、商業施設内でのインバウンド受入れ補助、博物館や工場でのイベント企画などの実習を実施。

2. 協力企業(2015年度)

(カッコ内は実際の受入先。☆は立教・首都大ともに参加)

アサヒグループホールディングス(アサヒビールコミュニケーションズ)

☆味の素(味の素、味の素コミュニケーションズ)

☆ANAホールディングス(ANAセールス、ANA総合研究所)

近畿日本ツーリスト

博報堂

☆東日本旅客鉄道(鉄道博物館、東京モルール、びゅうトラベルサービス、日本ホテル)

☆三井不動産(三井不動産商業マネジメント、三井不動産ホテルマネジメント)

☆三菱UFJニコス

☆森トラスト・ホテルズ&リゾーツ

☆ヤマト運輸

3. 対象

1. 立教大学

観光学部3年生

20名程度(各社1～2名程度の受入れ)

(2015年度 21名、2014年度 23名、2013年度 24名)

2. 首都大学東京

都市環境学部3年生 自然・文化ツーリズムコース、観光経営副専攻コース履修者
大学院観光科学博士課程前期1年生

10名程度(各社1～2名程度の受入れ)

(2015年度 10名、2014年度 12名)

4. 授業内容、期間

前期

(4月～7月)

- (1)イントロ、ビジネスマナー講座
- (2)受入企業からの講師派遣による講義(1回ずつ)
企業概要、観光への企業の多様な関わり方、実習内容等についての理解。
- (3)実習先の理解と目標の発表、派遣先決定

夏期休暇中

(8月～9月)

- 受入れ先でのインターンシップ(2週間:実働10日)
受入れ先は学生1名につき1企業。場所は都内近郊。

後期

(9月下旬
～11月)

- (1)産学合同報告会(学生からの実施報告)
経団連観光委員長および観光委員会委員同席の下、受講学生全員より、派遣先での実習内容・体験、今後の課題など、実習の成果について発表。
- (2)レポート提出、報告書作成